



一人の健康から地球の未来まで

AKATSUKA グリーン通信

Green Communication

vol.171 2013.6月号

熱帯スイレン

夏の暑い日差しの中、涼しげに咲くスイレンの花には、花好きならずとも誰もが魅了されてしまうことでしょう。学名の「ニンファ」は「妖精」の意味ですが、まさに水の妖精、その美しさは人の心を虜にしてしまいます。

花の美しさもさることながら、熱帯

スイレンの最大の特長は花数の多さと、開花期間の長さでしょう。1輪の花は3日間の命ですが、夏から秋にかけて連日のように次々と花を咲かせてくれます。また、小さな容器で栽培できる

のも大きな特長で、マンショーンなどのベランダでもたくさんのお花を楽しめます。特に照り返しの強い夏のベランダでも、全く衰えることなく次々と花を咲かせてくれるのは暑さに強い熱帯スイレンならではの魅力といえるでしょう。さらに素敵な香りも大きな魅力のひとつ。バラやジャスミンに匹敵するほどの素晴らしい香りは誰にでも好まれます。

✿花の姿が毎日変わる

水面に花を浮かべる温帯スイレンと

違い、水面より高く抜き出して花を咲かせるのが熱帯スイレンの特長ですが、3日間の開花中、ドラマチックに姿を変えながら開閉を繰り返すのも興味深

い性質です。

よく観察してみると、開花前日になると蕾が水面から少し顔をのぞかせています。そして開花当日の朝、水面から立ち上がった蕾は花を開きますが、無

数にあるオシベは筒状に開いて中心に鮮やかな黄色の柱頭盤がよく見えます。花はやや小さめですが、色彩はとても鮮やかです。夕方いつたん閉じた花は、2日目の朝また花を開きますが、今度はオシベ

がドーム状に整列して柱頭盤を隠し、全く違う姿を見せてくれます。この2日目が造形的には一番美しい花の姿といえるでしょう。さらに3日目にもまた違う顔を見せてくれたあと、4日目には開花を終え水中へ戻ってしまいます。

✿切り花にして楽しむ

花茎が丈夫なので、切り花にして楽しめるのも、熱帯スイレンの大きな特長です。香水のような素敵な香りを楽しむためにも、ぜひ切り花にしてみてください。水揚げがとても良いので、ただ切り取つて花瓶に挿しておくだけで、室内で咲き続けてくれます。コツ



✿日当たりがポイント

花を楽しむためにはとにかく日に当てることがポイントとなります。少なくとも半日以上の日当たりで育てる事が大切です。水温は40℃近くになつても大丈夫なので、夏の西日でもOKです。

肥料切れすると花が咲かなくなってしまうので、夏の間は月に一度、専用肥料を土に埋め込みます。水替えは基本的に不要で、蒸発した分だけ継ぎ足すようにすれば大丈夫です。

✿冬越し

12月頃になつて生育が止まつてきたら、土から掘上げ、葉と根を切り落とした球根をフェルトで包み、チャック付きのビニール袋に入れて室内で保存します。翌年の5月頃に球根を取り出し、暖かい窓辺で水の入つたコップに入れて催芽し、芽が動いてきたら専用土で鉢に植え付けます。保存前に、ベンレートなどの殺菌剤に漬けることと、保存中に乾き過ぎないよう少し湿り気を与えておくのがポイントです。

